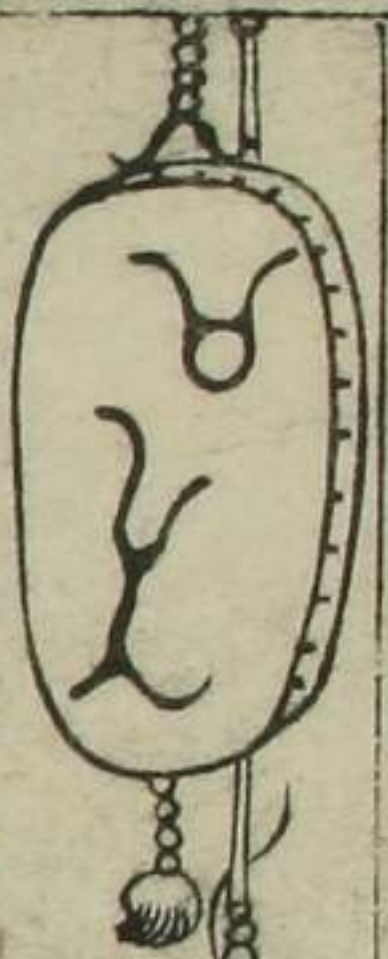


萬鳴を以て其おらんぐ細工物處



鼓笛佳響紅毛精巧
各應諸君需要只願
候好子幸轉耳

四方は富為方途法法榮ふ市入は庭窓候極なる
随て拙律の美日まはせ整葉はり初毛羽六尸は東也
一切の鳴物の東南西北花街のをもとを向ふ丸
洲の鳴離行える浪花屋〜と用御付と下日夜
諸彦子骨董店に屍をよるべあり御有宛は合
せ存人物あり世及〜と店同町筋向ひ愛意傳ひ
よ月代名物業のね政別〜と初毛精工具外器
風流吟の戲場雜具種々鳴物類の響々天の細女の神
鳴ものをも時今の四竹は至るまで新古雅俗をたけり
三笠圖會はよれる物述は山ははは〜と鼓の調は
京都の極品をあらぬ篠笛の江戸三田郎の正銘を雲
願分下事よる上代呂物と御具々の上格外意よ叶ひ
ひ換は立市にりり物日限お定子速市間よ合戸ひ
る不御愛用しり御付と御換偏〜と希上人以上
一 紅毛子キ元盃雪遠鏡具外御具をわいり〜
一 坐鋪唐繚よびよ道具類
一 鼓たのこ集よと鄭太鼓類
一 簫算横笛志お之艶笛尺八喉叭太平笙
一 琴三弦胡弓木琴錢胡弓
其外産り影なりもの類よりひち御一物すかちがず
は立〜上ひ

大阪富内心戈橋
ハズル西入南側

浪花屋周助

